

告知

出展決定

5/12/13 Tokyo International BarShow 2018

誇酒プロジェクト

kosyu project

5.1.2018

泡盛倉庫内／誇酒プロジェクト企画室  
沖縄県那覇市久米2-8-14 久米八番館ビル4階  
TEL:098-869-0808 <http://awamorisouko.jp>

誇酒プロジェクトの情報は Facebook にて検索

[kosyu-pj.jp](http://kosyu-pj.jp)



# 幻になった泡盛 限定復活への狼煙

沖縄県宮古島の狩俣地区にあった小さな泡盛蔵【千代泉酒造所】は、  
2013年に諸事情により休業、泡盛生産はストップ、惜しまれながら廃業の一途を辿り、  
地元住民を中心に親しまれ、飲まれた泡盛「千代泉」は世の中から姿を消しました。

私たちは昨年、廃屋となった酒造所の蔵にわずかに残った泡盛を発見、  
そのお酒を救い出すため「誇酒プロジェクト」を始動し、限定復活への狼煙をあげます。

残された限りある千代泉酒造所のお酒を、泡盛ファンはもちろんのこと、世界中のアルコールファンへ。  
それは、貴重な泡盛を飲むというだけでなく、泡盛を通して物語を楽しみ、  
豊かな文化に触れるものとなれば幸いです。

## 誇酒プロジェクトとは？

残念ながら廃業してしまった、沖縄県宮古島の泡盛の酒造所「千代泉酒造所」の酒蔵に静かに眠っていた泡盛の原酒を  
ブランディング、商品化し、みんなで味わいながら楽しむとともに、沖縄戦で失われてしまった600年の泡盛の文化を  
再興するためのプロジェクトです。



## 千代泉酒造所の特徴

宮古島の先端に位置し、古くからの伝統祭祀を今でも行っている“狩俣”という歴史ある地域。

千代泉酒造所は、その地で戦後間もなく泡盛製造を開始し、昔ながらの製法を守りながら、泡盛を造り続けていました。宮古島の隆起サンゴ礁からなる地層から染み出した湧き水を仕込みなどに使用しているため、味わいは柔らかな甘さとコクが特徴で、泡盛特有のすっきりとした飲み口と、手作り感のある素朴なお酒が千代泉。「狩俣の酒」として親しまれ、他の地域の酒造所のお酒を持って狩俣を訪れると、集落入り口にある共同売店で、千代泉酒造所のお酒と交換してくれていたという逸話があるほど、狩俣や宮古島の人たちに愛されていたお酒。ほとんどが島内で消費され、希少性の高いお酒でもありました。





## 誇酒プロジェクトへの私たちの想い

600年前に生まれた日本最古の蒸留酒《泡盛》。国酒として妥協なく磨かれた歴史ある泡盛は、悲しい歴史である70年前の沖縄戦で、何百年と備蓄されていた古酒だけでなく、泡盛のたしなみ方やお酒に対する価値観を含めた泡盛文化そのものが滅びかけてしまいました。

あれから70年、泡盛は、作り手の愛情や麹が息づく酒蔵の成長によって、そのポテンシャルを少しずつ取り戻し、昔ながらの深い味わいを楽しんでいただけるお酒へと生き返ってきました。

ところが、残念なことに、ビールやワイン、日本酒、ウイスキーなど、多様なお酒文化の中で、様々な事情から泡盛の酒造所それぞれが持つお酒の特徴や味わいを開花させる前に廃業してしまう酒造所も出てきています。

沖縄県宮古島の歴史ある狩俣という地域で長年愛されてきた千代泉酒造も、残念ながら廃業してしまった酒造所の一つ。「千代泉」という酒造所の名は、「千代に枯れることなき泉のごとく平和を願う。」という意味で、戦後の宮古島に誕生した小さな酒造でした。

今回のプロジェクトは、その千代泉酒造の酒蔵の中で静かに眠っていた泡盛の原酒約2万リットルを引き取り、泡盛の歴史や文化、酒造所のあった狩俣の地域性などを千代泉酒造所のお酒に乗せて、600年の歴史ある泡盛の魅力を再興しようとする取り組みです。もはや造られることのない最後の千代泉酒造所のお酒だけでなく、最期の泡盛からはじまる泡盛との出逢いを、世界中の皆様にお届けさせていただきます。

ぜひ千代泉酒造所の最後のお酒をご賞味ください。そして、泡盛文化へ改めて目を向けてみてください。



## 泡盛倉庫とは？

泡盛倉庫は、沖縄県那覇市久米にある会員制の泡盛専門BARです。現在は800種類程の泡盛をそろえ、その味は勿論のこと、作り手さんの想いや泡盛の歴史背景をお客様ひとりひとりに寄り添ってお楽しみいただいております。お店のシステムは《チャージ料金2000円》《泡盛原価1杯30円〜》となっており、《永久会員登録料金2万円》をお支払いいただきますと、上記のシステムを一生かけてお楽しみいただけます。会員様のお連れのお客様は会員様と同様にご案内させていただきます。また、近年は泡盛の魅力、泡盛を愛する皆様のお陰で日本各地で出張泡盛BARを展開したり、泡盛の語りべとして、喋ることのできない泡盛に代わって泡盛にまつわるお話をお届けしております。



伊平屋酒造所／照島  
千代泉酒造所／千代泉



崎山酒造廠／松藤  
千代泉酒造所／千代泉



# 泡盛を愛する仲間として 県内蔵元からの贈り物

## 追悼／千代泉酒造所泡盛ブレンドボトル 第一弾 解禁

泡盛酒造所の廃業は1972年沖縄県が日本復帰以降初めて。

泡盛を愛する仲間として、県内蔵元が集い千代泉酒造所の最後に追悼の意を表しブレンド泡盛を作ります。

お別れを各酒造蔵元が偲ぶだけでなく、これからも続く泡盛文化の発展を共に盛り上げたい。

追悼／千代泉酒造所泡盛ブレンドボトルでは、各酒造メーカーのブレンダーが自社の泡盛と千代泉泡盛を最高のブレンド比率により作り出した泡盛です。オリジナル限定復活の発売まで数回に分けて展開していく予定です。

千代泉酒造所の想いが泡盛ファンの心に残ってくれることを願います。

【追悼／千代泉酒造所泡盛ブレンドボトル 第一弾】7月発売予定

列席酒造所 ●伊平屋酒造所／照島 ●崎山酒造廠／松藤（順不同）

第二弾～ 秋冬予定

## 千代泉酒造所泡盛 限定復活に向け

千代泉酒造所泡盛 限定復活に向け準備を進めています。廃業した酒造所の商品を再度商品化するにあたり、たくさんの障壁が立ち並んでいます。そのひとつに権利。千代泉酒造所泡盛の品質は変わることはないのですが、ネーミング・ラベル・ボトル・パッケージなど全ての権利ある要素を新たにデザインする必要があり、私たち誇酒プロジェクトチームは、限りある幻の千代泉酒造所原酒に再度命を吹き込みファンのみなさまにご提供できるよう進めてまいります。

今後、Facebook「誇酒プロジェクト」にて情報を随時更新していく予定です。

